

2013. 3. 24 聖別会

IMMANUEL

インマヌエル
中目黒キリスト教会
聖別会マンスリー



2013年

グレイトハウス著「主が聖であられるように」

VI. キリスト者と聖霊

テキスト：

「主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」
(2 コリント 3 : 17-18)

■ 聖霊と信仰者の関係

- ① 聖霊の臨在の究極目的は（徴を与えることではなくて）信仰者を神に似るものとして変貌していくこと
- ② 聖霊はなぜ「聖なる」霊なのか？ 聖いかたであるとともに、聖める方だから
- ③ すべてのキリスト者は御霊を受けている。御霊による聖化の証拠を見せないものはキリスト者ではない、と言わねばならない(ローマ 8:9)

■ キリストは、私たちにとってどんな方か？

1. 神の力：信じる者を罪の束縛から解放し、神の形へと変えていく
(1 コリント 1:24-25、2 コリント 3 : 17-18)
2. 神の知恵：主を信じることによって与えられる御霊によって神の知恵を理解する (1 コリント 2 : 6-16)。神の知恵は下記の要素を含む：
 - ① 神の義：神との正しい関係に回復

- ②私たちの聖化：聖霊は、聖化を齎す
- ③贖い：栄化によって完成(ローマ 8:17)

■真正の聖霊体験とそうでないもの

初代教会における二つの戦い：

1. 異教の影響による異言の過度の強調

〈これは第一コリント書に顕著に見られる〉

- ・聖霊の働きを異言に特化する傾向（感情過多）
- ・しかし賜物の価値はキリストの体をどう建て上げるかにある(1コリント 14:12)
- ・その意味で、愛は最高の賜物である（1コリント 14:1）

2. ユダヤ教の影響による律法主義

〈これは特にガラテヤ書で扱われている〉

- ・律法主義とは、救いの条件として信仰以外のものを付け加えること（ガラテヤ 5:4）
 - ・律法主義は、キリストの死を無意味にし、神の恵みを無効にしてしまう(2:21)
 - ・律法主義は、ホーリネスの教えにも付きまとう
 - ・御霊にある命は、肉に対する十分な防御(5:1)
 - ・福音の命令は次の二つ
- ①愛する：自己愛に死に、愛をもって他に仕える(5:6、5:13-14)
 - ②御霊によって歩む：それによって肉に打ち勝ち、豊かな実を結ばせる(5:16-17、22-23)